

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-9567

住 所 川崎市川崎区白石町2-1

氏 名 日本鑄造株式会社

代表取締役社長 佐竹 義宏

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	日本鑄造株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区白石町2-1		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	22	鉄鋼業
主たる事業 の内容	鑄鋼製造業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	3,234	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
		電話番号	
		FAX番号	
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2022 年度 ～ 2024 年度 (報告年度 2024 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況(第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)	
排出量 (t-CO ₂)	(実) 6,004 (調) 3,334	(実) 6,786 (調) 2,668	(実) 6,783 (調) 2,367	(実) 1,879 (調) 24	(実) 5,904 (調) 3,234
削減率		(実) -13.0 % (調) 20.0 %	(実) -13.0 % (調) 29.0 %	(実) 68.7 % (調) 99.3 %	(実) 1.7 % (調) 3.0 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値(任意記載)

原単位等の活動量		溶解量			原単位等の単位	t-CO ₂ /t
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標とした値	
	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)		
排出量原単位等の値	1.257	1.195	1.180	0.3573	1.236	
活動量の値	4,775	5,675	5,746	5,258	-	
排出量原単位等の削減率		4.9 %	6.1 %	71.6 %	1.7 %	

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	生産量18.8%増加し二酸化炭素排出量も13%増加したが、二酸化炭素排出量原単位が4.9%減少し、省エネ努力が実を結んでいる。また、本社・川崎地区で使用する購入電力を全てCO ₂ 排出量ゼロ(排出係数が、0.000kg-CO ₂ /kWh)の再エネ由来の非化石証書を使用した電力に切替えているため、調整後排出量が20%減少した。	
第2年度	生産量20.3%増加したが二酸化炭素排出量は13%増加したが、二酸化炭素排出量原単位が6.1%減少し、省エネ努力が実を結んでいる。また、本社・川崎地区で使用する購入電力を全てCO ₂ 排出量ゼロ(排出係数が、0.000kg-CO ₂ /kWh)の再エネ由来の非化石証書を使用した電力に切替えているため、調整後排出量が29%減少した。	
第3年度	基準年より生産量10.3%増加したが、新たに2024年7月度より川崎地区で使用する都市ガス(13A)をカーボンオフセット都市ガス(排出係数が、0.000kg-CO ₂ /m ³)に変更したため、二酸化炭素排出量は93.6%減少し、二酸化炭素排出量原単位が94.2%減少し、大幅なCO ₂ 削減効果が得られ、実を結んでいる。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		老朽空調設備更新及び高効率トランスへの更新、高機能換気システム設置、電力省エネ操業、非化石証書電力、カーボンオフセット都市ガスへ切替え等により、二酸化炭素排出量は93.6%減少し、大幅に削減した。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		今後も老朽空調設備更新、太陽光発電設置、電力省エネ操業、非化石証書電力、カーボンオフセット都市ガス切替などに取り組みCO ₂ 削減を実施して行きたい。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況(全社目標)(任意記載)

老朽空調設備更新及び高効率トランスへの更新、高機能換気システム設置、電力省エネ操業、非化石証書電力、カーボンオフセット都市ガスへ切替え等により、温室効果ガスの二酸化炭素排出量は93.6%減少し、二酸化炭素排出量原単位が94.2%減少し、大幅に削減した。
--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○空調設備を高効率なものに更新。 ○トランスを高効率なものに更新。 ○太陽光パネルの設置。 ○燃料電池の設置。 ○高機能換気システムの設置。 ○高周波炉での連続操業による電力省エネ。
<p>第1年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○老朽空調設備の更新による高効率化。(Δ5KL/年) ○川崎地区変電所の高効率トランスへ更新。(Δ6KL/年) ○川崎地区への30kw太陽光パネルの設置。(Δ11KL/年) ○川崎地区高周波炉での連続操業による電力省エネ (8t高周波炉に約9割集約による省エネ:溶解量原単位(kwh/t) 昨年度比Δ3%減、Δ25KL/年) ○川崎・本社の本館・別館事務所への高機能換気システムの設置による電力省エネ。(Δ7KL/年)
<p>第2年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○老朽空調設備の更新による高効率化。(Δ5KL/年) ○川崎地区変電所の高効率トランスへ更新。(Δ6KL/年) ○川崎地区への30kw太陽光パネルの設置。(Δ11KL/年) ○川崎地区高周波炉での連続操業による電力省エネ: 8t高周波炉に約9割以上集約による省エネ: 溶解量原単位が638から623kwh/tに減少。 昨年度比Δ2%減(2021年度に比べΔ5%減) ○川崎・本社の本館・別館事務所への高機能換気システムの設置による電力省エネ。(Δ7KL/年) ○集塵機へのインバーター設置による電力量低減。(Δ2KL/年)
<p>第3年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○老朽空調設備の更新による高効率化。(Δ5KL/年) ○川崎地区変電所の高効率トランスへ更新。(Δ6KL/年) ○川崎地区で使用する都市ガス(13A)をカーボンオフセット都市ガス(排出係数が、0.000kg-CO2/m3)に変更によるCO2排出量削減。(Δ1493t-CO2/年)
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>老朽空調設備の更新、川崎地区変電所の高効率トランスへ更新、川崎地区30Kw太陽光パネルの設置、事務所高機能換気システムの設置、集塵機へのインバーター設置、川崎地区高周波炉連続操業による電力省エネ、川崎地区で使用する都市ガス(13A)をカーボンオフセット都市ガスへ切替等により、二酸化炭素排出量は93.6%減少し、大幅に削減出来た。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	○	川崎地区への太陽光パネルの追加設置検討中。
風力		
バイオマス		
未利用エネルギー		
その他()		
その他()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光発電設備	出力22kW 本館屋上 発電電力量7,127kWh/年 稼働期間 2016年12月21日～2017年3月31日	2016年
太陽光発電設備 (2021年度実績)	発電電力量 24,963kWh/年	-
太陽光発電設備	模型倉庫屋根へ30kWの太陽光パネルを設置した。	2022年

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他()	×
EV、PHV、FCV	○	その他()	×

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

計 画	特にありません。
第1年度	特にありません。
第2年度	特にありません。
第3年度	特にありません。

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

計 画	特にありません。
第1年度	特にありません。
第2年度	特にありません。
第3年度	特にありません。

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	6,004 t-CO ₂	6,786 t-CO ₂	6,783 t-CO ₂	1,879 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	3,198 KL	3,565 KL	3,533 KL	3,234 KL
事業所の数	2	2	2	1

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の 所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
鋳鋼工場 (川崎地区)	川崎市川崎区白 石町2-1	4,990	6,152	6,524	1,879

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の 所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
鋳鋼工場 (池上地区)	川崎市川崎区池 上町 2 - 1	1,014	634	259	